

病害虫発生予報 第1号

富山県農林水産総合技術センター所長

4月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	トリコデルマ、リゾプス、フザリウムによる苗立枯病	やや多い	—	果樹	リンゴのハダニ類	やや多い	やや早い
	ピシウムによる苗立枯病	やや少ない	—		リンゴのリンゴコブアブラムシ	並	やや早い
	もみ枯細菌病、苗立枯細菌病による苗立枯性病害	やや多い	—		ニホンナシの黒星病	並	やや早い
	褐条病による苗立枯性病害	少ない	—		ニホンナシのニセナシサビダニ	やや多い	やや早い
	ばか苗病	少ない	—		ブドウの黒とう病	並～やや多い	やや早い
大麦	雲形病	少ない	—		ブドウの晩腐病	並～やや多い	やや早い
	うどんこ病	少ない	—		カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	並	やや早い
野菜	タマネギのべと病	やや多い	—		モモのせん孔細菌病	並～やや多い	やや早い
果樹	リンゴの黒星病	少ない	やや早い	花き 球根	チューリップの褐色斑点病	並	早い
	リンゴの褐斑病	やや多い	やや早い		チューリップのモザイク病	多い	—
	リンゴのうどんこ病	やや多い	やや早い		チューリップのアブラムシ類	やや多い	早い

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課
 TEL 076-429-5249 FAX 076-429-7974
 情報参考 URL
<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/index.html>

I 水 稲

1 トリコデルマ、リゾプス、フザリウムによる苗立枯病

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 4月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 育苗資材の衛生管理と、育苗期間のハウスの適正な温湿度管理（夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理し、多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。
- ・ 防除指針（31年度）：16～18 ページ参照

2 ピシウムによる苗立枯病

(1) 予報内容 発 生 量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 4月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 育苗資材の衛生管理と、育苗期間のハウスの適正な温湿度管理（夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理し、多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。
- ・ 防除指針（31年度）：17～18 ページ参照

3 もみ枯細菌病、苗立枯細菌病による苗立枯性病害

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 4月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 育苗資材の衛生管理を徹底する。
- ・ 種子消毒を徹底する。
- ・ 温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守する。また、催芽前または催芽時に食酢処理又は生物農薬を併用し防除効果を高める。
- ・ 出芽期、緑化期の温度は30℃を上回らないよう育苗器の設定やハウス内の換気に努める。
- ・ 防除指針（31年度）：11～19 ページ参照

4 褐条病による苗立枯性病害

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の育苗障害調査では、発生箇所率が0%で平年(5.8%)より低かった。

(3) 防除対策

- ・育苗資材の衛生管理を徹底する。
- ・種子消毒を徹底する。
- ・温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守する。また、催芽前または催芽時に食酢処理又は生物農薬を併用し防除効果を高める。
- ・出芽期、緑化期の温度は30℃を上回らないよう育苗器の設定やハウス内の換気に努める。
- ・防除指針(31年度)：11～19 ページ参照

5 ばか苗病

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の育苗障害調査では、発生箇所率が2.2%で平年(9.3%)より低かった。

(3) 防除対策

- ・種子消毒を徹底する。
- ・育苗資材の衛生管理を徹底する。
- ・温湯消毒の場合は、温度、時間および種子の処理量を厳守する。また、生物農薬の併用で防除効果を高める。
- ・防除指針(31年度)：11～15 ページ参照

II 大 麦

1 雲形病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・近年の発病が少なく、種子の保菌程度が低いと予想される。

(3) 防除対策

- ・排水対策を徹底する。
- ・防除指針(31年度)：49ページ参照

2 うどんこ病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・3月10日調査の発病度は0で平年(0.2)より低かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針(31年度)：48ページ参照

Ⅲ 野菜

1 タマネギのべと病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年10～12月の気温は12.2℃で平年(11.0℃)より高く推移した。
- ・4月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・排水対策を徹底する。
- ・防除指針(31年度)：114ページ参照

Ⅳ 果樹

1 リンゴの黒星病

(1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

【早発要因】

- ・3月の気温は平年より高く、4月の気温も平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・被害落葉の病斑内で越冬した病原菌の子のう胞子が春以降飛散するので、落葉の処理(被害落葉のは場外への持ち出し)を徹底する。
- ・開花直前および落花直後は重要防除時期なので、防除を徹底する。なお、果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の開花始期は4月23日、開花盛期は4月27日である。
- ・低温や降雨により感染が助長されるので、薬剤の散布間隔を開けすぎないように注意する。
- ・防除指針(31年度)：149～151, 153～154, 158～159 ページ参照

2 リンゴの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

【早発要因】

- ・3月の気温は平年より高く、4月の気温も平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・被害落葉の病斑内で越冬した病原菌の子のう胞子が春以降飛散するので、落葉の処理(被害落葉のは場外への持ち出し)を徹底する。
- ・前年に褐斑病の発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、春先からの薬剤の散布量を十分確保する。
- ・防除指針(31年度) 149～154, 158～159 ページ参照

3 リンゴのうどんこ病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
発生時期：**やや早い**
- (2) 予報の根拠
【多発要因】
・前年の発生量はやや多かった。
【早発要因】
・3月の気温は平年より高く、4月の気温も平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
・うどんこ病の被害枝、一次発生花（葉）そうは見つけ次第せん除する。
・開花直前から落花20日後頃までは重要防除時期であるので、防除を徹底する。
・防除指針（31年度）：149～150, 153～154, 158～159 ページ参照

4 リンゴのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
発生時期：**やや早い**
- (2) 予報の根拠
【多発要因】
・前年の発生量はやや多かった。
【早発要因】
・3月の気温は平年より高く、4月の気温も平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
・マシン油乳剤による防除は発芽直後の時期を逸さないよう注意する。なお、果樹研究センターにおける平年の「ふじ」の発芽日は3月25日である。
・越冬密度を下げるため粗皮削りを励行する。
・防除指針（31年度）：148, 150, 155, 157, 159～160 ページ参照

5 リンゴのリンゴゴブアブラムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：**やや早い**
- (2) 予報の根拠
・前年の発生量は平年並であった。
【早発要因】
・3月の気温は平年より高く、4月の気温も平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
・発生量が多い場合は、ウララ DF を散布する。
・防除指針（31年度）：150～151, 156, 159～160 ページ参照

6 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：**やや早い**
- (2) 予報の根拠
・前年の発生量は平年並であった。
【早発要因】
・3月の気温は平年より高く、4月の気温も平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
・被害落葉の病斑内で越冬した病原菌の子のう胞子が春以降飛散するので、落葉処理（園外での処分、乗用草刈機による粉砕、ロータリーによるすき込み等）を徹

底する。

- ・芽基部病斑は見つけ次第、基部から切除し、園地外で処分する。
- ・開花直前および落花直後は最重要防除時期であるので、薬剤の散布間隔が開け過ぎないように注意し、防除を確実に実施する。なお、果樹研究センターにおける平年の「幸水」の開花始期は4月18日、開花盛期は4月21日である。
- ・品種や園地によって開花ステージが大きく異なるような場合は、それぞれの品種や園地の開花ステージに併せて防除を実施する。
- ・防除指針（31年度）：161～166, 169 ページ参照

7 ニホンナシのニセナシサビダニ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
【多発要因】
 - ・前年の発生量はやや多かった。
【早発要因】
 - ・3月の気温は平年より高く、4月の気温も平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・越冬密度を下げるため粗皮削りを励行する。
 - ・落花直後にハチハチフロアブル2,000倍を散布する。
 - ・防除指針（31年度）：161, 168, 170～171 ページ参照

8 ブドウの黒とう病

- (1) 予報内容 発生量：並～やや多い
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
【多発要因】
 - ・前年の発生量は平年並であったが、一部品種（「シャインマスカット」）でやや多かった。
【早発要因】
 - ・3月の気温は平年より高く、4月の気温も平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・前年に発生が見られた園地では被害枝や棚線に残っている巻きづるを除去し、ほ場外に持ち出す。
 - ・発芽前及び発芽直前の時期を逸しないように防除を実施する。なお、果樹研究センターにおける平年の露地栽培「巨峰」の発芽時期は4月14日である。
 - ・前年に黒とう病の発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、春先からの薬剤の散布量を十分確保する。
 - ・降雨が多いと感染が助長されるので、防除を確実に実施する。
 - ・防除指針（31年度）：172, 174～175 ページ参照

9 ブドウの晩腐病

- (1) 予報内容 発生量：並～やや多い
発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
【多発要因】
 - ・前年の発生量は平年並～やや多かった。

【早発要因】

- ・ 3月の気温は平年より高く、4月の気温も平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 前年に発生が見られた園地では被害枝や棚線に残っている巻きづるを除去し、ほ場外に持ち出す。
- ・ 発芽前及び発芽直前の時期を逸しないように防除を実施する。なお、果樹研究センターにおける近年の露地栽培「巨峰」の発芽時期は4月14日である。
- ・ 防除指針(31年度)：172～175 ページ参照

10 カキ(三社)のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：やや早い

- (2) 予報の根拠
・ 前年の発生量は平年並であった。

【早発要因】

- ・ 3月の気温は平年より高く、4月の気温も平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 越冬密度を下げるため粗皮削りを励行する。
- ・ 前年にフジコナカイガラムシの発生が多かった園地では、発芽前までにマシン油乳剤を、また4月中下旬にアブロード水和剤1,000倍を散布する。
- ・ 防除指針(31年度)：177～178, 180～181 ページ参照

11 モモのせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：並～やや多い
発生時期：やや早い

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 前年の発生量は平年並～やや多かった。

【早発要因】

- ・ 3月の気温は平年より高く、4月の気温も平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ せん孔細菌病の多発園では防風対策を行う。
- ・ せん孔細菌病の被害枝、春型枝病斑は見つけ次第せん除する。
- ・ 4月は初期の予防に重要な時期であるので、開花直前防除以降、散布間隔が開き過ぎないように注意する。なお、果樹研究センターにおける平年の「あかつき」の開花始期は4月10日、開花盛期は4月13日である。
- ・ 防除指針(31年度)：182～184, 186 ページ参照

V 花き・球根

1 チューリップの褐色斑点病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：早い

- (2) 予報の根拠
・ 4月の降水量は、ほぼ平年並と予想されている。

【早発要因】

- ・ 生育が平年より早く、3月の気温も高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・萌芽時からの発病株を抜き取り、殺菌剤の定期散布により予防・防除する。
- ・防除指針（31年度）：198 ページ参照

2 チューリップのモザイク病

(1) 予報内容 発生量：**多い**

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年のアブラムシ飛来量が多かった。

(3) 防除対策

- ・モザイク病発病株の抜き取りを徹底し、アブラムシ類の防除薬剤を定期的に散布する。
- ・防除指針（31年度）：199, 223～224 ページ参照

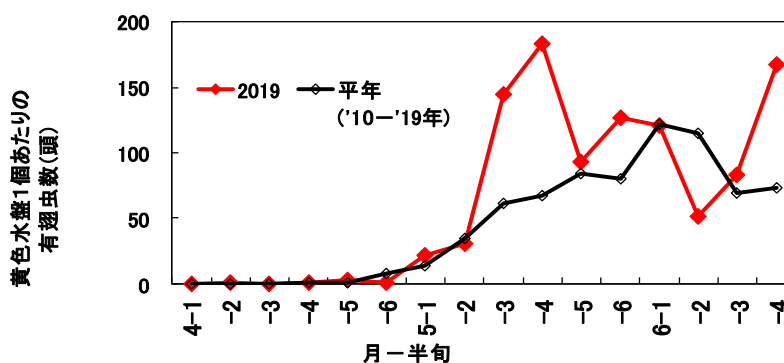


図 アブラムシ有翅虫の飛来消長

3 チューリップのアブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：**やや多い**

発生時期：**早い**

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・4月の気温は平年並か高いと予想されている。

【早発要因】

- ・冬季の積雪日数が少なく、3月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・防除薬剤の定期的な散布とモザイク病発病株の抜き取りを徹底する。
- ・ほ場周辺の除草対策を徹底する。
- ・防除指針（31年度）：199, 223～224 ページ参照

～農薬危害防止～

- 1 農薬の保管は適切に→必ずカギがかかるようにする。
- 2 周辺環境への配慮を→農薬が飛散しないよう努める。
- 3 防護装備を正しく着用→マスク、保護メガネ、防除衣を着用。

北陸地方 3か月予報

(3月から5月までの天候見通し)

令和2年2月25日
新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

3月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、高い確率50%です。

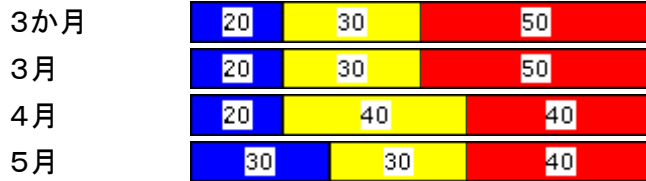
4月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

5月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

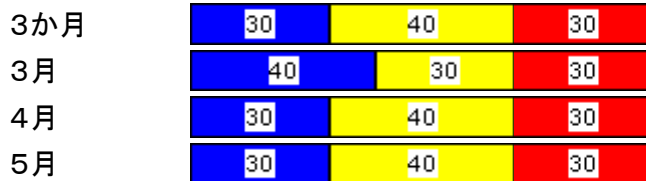
【気温】

[北陸地方]



【降水量】

[北陸地方]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)